

Trias 企業メモ 2010-12-17

**(2429 JASDAQ)株式会社ワールドインテック**  
**中期経営計画・2010年12月期 第3四半期決算説明会**  
**ならびにフォローアップ取材サマリ**

12月2日に開催された株式会社ワールドインテック(以下、ワールドインテック、または当社)の中期経営計画、ならびに2010年12月期第3四半期決算に関する会社説明会の概要と、その後のフォローアップ取材のサマリをご案内いたします。説明会での会社側説明者は代表取締役会長 伊井田栄吉氏、フォローアップ取材対応は経営政策本部 広報 IR 室 工藤洋氏です。

**【中期経営計画(2011-2013年度) ~九州からアジアへ~】**

当社は、足元注力している新規事業への投資なども踏まえた中期経営計画を発表した。これにより、2013年12月期には売上高562億円(2010年度見込みは317億円)、営業利益24億円(同2.8億円)を目指す。人材関連事業の主力であるファクトリー事業については、労務管理のプロと並行して、ものづくりをマネジメントするプロの育成を強化する。そのために、大手半導体メーカーで40年間製造現場の構築や改善を行ってきた責任者を採用し、請負現場のマネジメントについて、最低限の人員で最高のパフォーマンスが出せる体制づくりを進め始めた。またクライアントからのタイムリーな生産活動の立上げに応えられるよう、即戦力となる人材の積極採用も行っている。厚生労働省発表の労働者派遣事業報告によれば、金融危機を経て、製造系人材ビジネス業界の市場規模は202万人から108万人へと半減。厳しい業界環境にあるものの、当社ではこうした戦略を通してクライアントからの信頼を勝ち取り、着実に業界内シェアを拡大する狙いである。

**【不動産事業について】**

中期経営計画のもう一つの柱となる不動産事業については、今年4月に参入を決定し、株式会社ワールドレジデンシャルを設立。6月にニチモリアルエステート株式会社(以下、ニチモ)を買収し、住宅の開発事業を行う組織を確立した。当社は強固な財務基盤があり、またそもそも不動産ビジネスで創業したことから、経営陣にも当該ビジネスについての知識やノウハウが備わっている。金融危機を経て新興ディベロッパーの淘汰が進んだタイミングは絶好のチャンスと見て不動産事業へ参入した。財務的に余裕があり、主力人材関連事業などが回復しつつあるこの時期に新規事業の基盤を固め、中長期的によりバランスのとれたビジネスモデルを構築していく狙いがある。当社の不動産事業の戦略としては、首都圏の中・小規模のマンション(50~80戸タイプ)に限定したディベロッパー事業に特化し、まずは200億円の売上高規模を目指す。事業として目指す規模や対象物件規模を明確に限定することで、着実な収益を伴うビジネス拡大を実現する。なお、当社の強み・特徴としては：(1)マンション管理会社を内部に取り込み、仕入れから建築、販売、管理までを一貫して行えることから、顧客満足度の高いビジネスを実現；(2)各地所のきめ細かなマーケティングリサーチ；(3)ネット販売の強化(販売の約半分はネット経由を想定)が挙げられる。ディベロッパー事業は初期投資が必要であり、今期・来期は赤字だが、2013年度には売上高・営業利益は各120億円・7億円を見込み、営業利益は連結営業利益の約3割を占めると計画している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【表1】中期計画数値目標

(百万円)		FY12/10	FY12/11		FY12/12		FY12/13	
		見込み	計画	増減率	計画	増減率	計画	増減率
ファクトリー事業	売上高	13,885	16,930	21.9%	20,800	22.9%	22,700	9.1%
	営業利益	627	610	-2.7%	850	39.3%	1,255	47.6%
	営業利益率	4.5%	3.6%	-	4.1%	-	5.5%	-
テクノ事業	売上高	5,901	6,000	1.7%	7,000	16.7%	8,200	17.1%
	営業利益	328	364	11.0%	455	25.0%	570	25.3%
	営業利益率	5.6%	6.1%	-	6.5%	-	7.0%	-
R&D事業	売上高	2,092	2,350	12.3%	2,800	19.1%	3,500	25.0%
	営業利益	128	178	39.1%	218	22.5%	280	28.4%
	営業利益率	6.1%	7.6%	-	7.8%	-	8.0%	-
情報通信事業	売上高	8,004	7,400	-7.5%	7,500	1.4%	7,800	4.0%
	営業利益	166	230	38.6%	260	13.0%	280	7.7%
	営業利益率	2.1%	3.1%	-	3.5%	-	3.6%	-
不動産事業	売上高	52	2,520	4746.2%	8,850	251.2%	12,070	36.4%
	営業利益	△ 135	△ 494	-	680	-	710	4.4%
	営業利益率	-	-	-	7.7%	-	5.9%	-
各種サービス事業	売上高	1,766	1,650	-6.6%	1,730	4.8%	1,970	13.9%
	営業利益	△ 14	81	-	175	116.0%	230	31.4%
	営業利益率	-	4.9%	-	10.1%	-	11.7%	-
合計	売上高	31,700	36,850	16.2%	48,680	32.1%	56,240	15.5%
	消去または全社	819	850	3.8%	870	2.4%	890	2.3%
	営業利益	280	119	-57.5%	1,768	1385.7%	2,435	37.7%
	営業利益率	0.9%	0.3%	-	3.6%	-	4.3%	-

※表はいずれも、(株)ワールドインテック開示データを基に(株)トリアスにて作成

【2010年12月期第3四半期 連結決算概要と通期業績予想修正】

当第3四半期累計期間(1-9月)は、売上高 234 億円(前年同期比 8.2%増)、営業利益 2.3 億円(同 91.2%増)となった。人材関連事業が回復基調に入りつつあることや、情報通信事業や各種サービス事業の売上増が、前年同期比較での収益改善をけん引した。

【表2】FY12/10 3Q(累計)連結決算概要

(百万円)	FY12/09	FY12/10				前年同期比		
	Q3 累計実績	Q1 実績	Q2 実績	Q3 実績	Q3 累計実績	増減額	増減率	
売上高	21,688	7,652	7,926	7,886	23,464	1,776	8.2%	
営業利益	125	154	132	△ 47	239	114	91.2%	
営業利益率	0.6%	2.0%	1.7%	-0.6%	1.0%	-	-	
経常利益	256	209	131	△ 20	320	64	24.9%	
経常利益率	1.2%	2.7%	1.7%	-0.3%	1.4%	-	-	
当期純利益	△ 22	126	6	△ 84	48	70	-	
純利益率	-0.1%	1.6%	0.1%	-1.1%	0.2%	-	-	

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

しかしながら通期利益予想は、2Q 末時点の旧予想からそれぞれ下方修正した(売上高はわずかに上方修正)。この背景には、派遣法改正の方向感が見えづらく、顧客メーカーの発注が来年にずれ込む傾向があることに加え、円高の進行やエコポイントが12月から半分になることなどの外部環境の変化を織り込んでいる。

**【表3】FY12/10通期修正予想**

(百万円)	FY12/10予想 (10-11-8付)		前年同期比 増減率
	旧予想	新予想	
売上高	31,300	31,700	9.0%
営業利益	690	280	-28.0%
営業利益率	2.2%	0.9%	-
経常利益	700	400	-25.5%
経常利益率	2.2%	1.3%	-
当期純利益	240	0	-
純利益率	0.8%	-	-

**【事業セグメント別概況】**

主力のファクトリー事業については、ボリューム的に下落トレンドから抜け出したものの、回復は想定よりも弱い。ただし、取引先での原価改善努力や、拠点ごとの収益性改善施策の強化により、営業利益率は、前年同期比 0.2%の改善となった。リーマンショック後、2-3 万円水準にまで下落した一人当たり採用コストは、今年度に入り徐々に上昇してきており、足元 5-6 万円水準になってきている。当社では 2008 年以降、広告投資を削減してきたが、今後は投資が増えてくる局面にあると考えている。

ファクトリー事業の来期にとって、派遣法改正の方向感が定まらないことが最大のリスクと捉えている。既にこの影響は、11 月後半から顕著になっており、来年年初もう一段の落ち込みを経て、回復局面に入るのではないかと想定している。来期に向けて、業界における淘汰はさらに進むと予想されるが、これは、当社の財務力、コンプライアンス対応力などを優位性として顕在化できる好機と考えている。このため、当社の地域基盤である九州、中・四国地域における更なるシェア拡大に加え、戦略地域として、関東・東北での新規開拓強化を進めている。

前年同期比増収・減益となったテクノ事業については、この領域における後発として、ブランディングのための広告投資を強化してきた結果、ここ数ヶ月、特に設計系のエンジニアが増員傾向にあるが、これは M&A などに頼らない自力拡大のための重要な投資と捉えているが、一方で、このような人材投資を背景に営業利益率が縮小傾向にある。前述の中期経営計画にもある通り、製造系人材ビジネス領域において、テクノ事業は規模拡大を大きく狙う戦略事業であるため、今期見込み売上高 60 億円弱を、早い段階で 100 億円が視野に入る水準にまで引き上げていく計画だ。

同じく、前年同期比増収・減益の R&D 事業については、新卒を中心に増員を行っている。この事業セグメントでは、現在教育に注力しており、来 2011 年度までは投資が先行し、利益水準は横ばいを想定している。この事業も中計において、更なる拡大を目指しているが、今後営業拠点をさほど増やす予定はなく、地域限定で採算重視の展開を考えている。

ファクトリー事業と異なり、テクノ・R&D 事業ともども、将来の競争力としては、人員をどれだけ抱えられるかにかかっている。このため、業界におけるブランド力を上げ、収益性を担保するための受注量の安定的な確保

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

を重要課題として認識している。

当第3四半期、想定以上に好調だったのが、主にau、Softbankの携帯電話商材を扱う情報通信事業。特にスマートフォンなどの新型携帯電話への切り替え効果により、販売が伸長したと同時に、経費削減効果が出た。スマートフォン効果は、来期以降も継続すると予想している。中計では、同事業の現在 2%台の営業利益率を3.5%以上に引き上げる計画だが、その達成のため、携帯電話販売事業のほか、例えば美容室紹介サイトなど、新商材の拡充にも注力している。📱

**【表4】 事業セグメント別業績概要**

(百万円)		FY12/09 3Q	FY12/10 3Q	前年同期比		FY12/09	FY12/10
		累計実績	累計実績	増減額	増減率	実績	予想 (10-11-8)
ファクトリー事業	売上高	9,873	10,212	339	3.4%	13,221	13,885
	営業利益	440	479	39	8.9%	775	627
	営業利益率	4.5%	4.7%	-	-	5.9%	4.5%
テクノ事業	売上高	4,337	4,427	90	2.1%	5,707	5,901
	営業利益	264	243	△ 20	-7.8%	357	328
	営業利益率	6.1%	5.5%	-	-	6.3%	5.6%
R&D事業	売上高	1,477	1,535	57	3.9%	1,967	2,092
	営業利益	103	87	△ 15	-15.0%	137	128
	営業利益率	7.0%	5.7%	-	-	7.0%	6.1%
情報通信事業	売上高	5,246	5,878	631	12.0%	7,200	8,004
	営業利益	90	133	43	47.6%	141	166
	営業利益率	1.7%	2.3%	-	-	2.0%	2.1%
不動産事業	売上高	-	31	31	-	-	52
	営業利益	-	△ 71	△ 71	-	-	△ 135
	営業利益率	-	-1.0%	-	-	-	-259.7%
各種サービス事業	売上高	753	1,379	626	83.2%	996	1,766
	営業利益	△ 73	△ 14	58	79.7%	△ 95	△ 14
	営業利益率	-9.8%	-1.0%	-	-	-9.5%	-0.8%
合計	売上高	21,688	23,464	1,776	8.2%	29,094	31,700
	消去または全社	△ 699	△ 618	81	-	△ 926	△ 820
	営業利益	125	239	114	91.2%	389	280
	営業利益率	0.6%	1.0%	-	-	1.3%	0.9%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【ご参考】(2429)株式会社ワールドインテック

連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2010.9月	16,734,000
うち自己株式数(株)	2010.9月	496,274
時価総額(百万円)	2010.12.17	2,359
1株当純資産(円)	2010.9月	253.9
ROE(%)	2009.12月	3.6
ROA(%)	2009.12月	1.4
PER(倍)	2010.12月予	-
PCFR(倍)	2009.12月	8.5
PBR(倍)	2009.12月	0.6
株価(円)	2010.12.17	141
単元株数(株)	2010.9月	100
日々平均出来高(株)	2010.12.17	62,283

連結主要データ		
総資産(百万円)	2010.9月	11,989
自己資本(百万円)	2010.9月	4,122
有利子負債(百万円)	2010.9月	3,432
自己資本比率(%)	2010.9月	34.4
有利子負債比率(%)	2010.9月	83
フリーキャッシュフロー(百万円)	2010.9月	△ 2,773

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

日々平均出来高=過去1年間の平均

有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2006年12月期	34,850	978	1,172	418	7,555.98	1,300.00
2007年12月期	46,497	1,345	1,772	741	13,363.08	1,300.00
2008年12月期	48,767	1,089	1,278	192	3,485.05	1,300.00
2009年12月期	29,094	389	537	149	2,753.48	1,300.00
2010年12月期3Q累計	23,464	239	320	48	2.96	-
予2010年12月期	31,700	280	400	0	0.00	-

注 2010年12月期予想は、2010年11月8日発表の会社予想

株価チャートとRSI



出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ度」や「売られ過ぎ度」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われてい

RSI= N日間の値上がり幅平均 ÷ (N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均) × 100

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。